

衆議院環境委員会ニュース

平成 27.3.27 第 189 回国会第 3 号

3月27日（金）、第3回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・望月環境大臣、高木経済産業副大臣、福山環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

馬淵澄夫君（民主）

- ・我が国の温室効果ガス排出量の約4割を占める電力事業分野において、一昨年4月の関係閣僚会合で決まった電力業界に温暖化対策の枠組みの構築を促す取組の進捗状況を伺いたい。また、同分野での新たな温室効果ガス削減枠組みについて、先日、望月環境大臣が行った事務方への指示内容について伺いたい。
- ・地球温暖化対策を話し合う閣僚会議としては、現在、地球温暖化対策推進本部しかないが、その直近の開催状況を伺いたい。また、関係閣僚での会議の場を望月環境大臣が率先して設けるべきだと考えるが大臣の見解を伺いたい。
- ・昨年12月に非公開で開催された「2050年再生可能エネルギー等分散型エネルギー普及可能性検証検討会」において提示された再生エネルギー導入見込み量の具体的内容を望月環境大臣に伺いたい。また、委託先から報告書を受領したら速やかに公表すべきと考えるが、望月環境大臣の見解を伺いたい。

田島一成君（民主）

- ・容器包装リサイクル法の見直しを求める請願が平成23年に採択されているにもかかわらず、環境省と経済産業省の審議会の合同会合による検討が遅れている。現在の状況と会合の早期再開の必要性について、高木経済産業副大臣及び福山環境大臣政務官の見解を伺いたい。
- ・レジ袋削減に向けて同法の小売事業者に係る定期報告制度を活用すべきだが、事業者が提出した報告書の公表を進める必要性について、高木経済産業副大臣の見解を伺いたい。
- ・新潟水俣病公式確認から50年を迎えるに当たり、水俣病問題に関する環境省の対応について、患者団体等から心がないとの声が上がっていることについて、望月環境大臣の見解を伺いたい。

小沢鋭仁君（維新）

- ・安倍内閣総理大臣が標榜している「地球儀を俯瞰する外交」に気候変動への危機感を持って取り組む必要があると考えるが、望月環境大臣の見解を伺いたい。
- ・本年3月末までに準備ができる国は2020年以降の温室効果ガスの削減目標案を提出するよう国際的に招請されている中で、我が国は電源構成（エネルギーミックス）策定の議論が続いている状況にある。国際交渉において、我が国がイニシアティブを発揮するためにも、早期に削減目標案を明示する必要があると考えるが、望月環境大臣の見解を伺いたい。
- ・いわゆるごみ屋敷対策を定めた「廃棄物の集積又は貯蔵等に起因する周辺的生活環境の保全上の支障の除去等に関する法律案」（第186回国会衆法第22号）について、環境省の所見を伺いたい。

松田直久君（維新）

- ・安定した電力の供給源として木質バイオマスエネルギーの導入拡大を図るべきと考えるが、未利用間伐材等の活用に係る環境省の取組方針を伺いたい。
- ・木質バイオマス燃料の需要が高まり、その価格が上昇している現状に対し、木材業者に対し何らかの指導が必要と考えるが、林野庁の見解を伺いたい。
- ・リニア中央新幹線の建設工事に当たり、建設残土の発生や河川の流量の低下など様々な影響を想定する必要があると考えるが、国土交通省の見解を伺いたい。また、事故が発生した際の責任の所在について、国土交通省の見解を伺いたい。

島津幸広君（共産）

- ・食品リサイクル法に基づく登録再生利用事業者の数、食品製造業における食品廃棄物等の発生量及びそのリサイクル率について、環境省に伺いたい。
- ・愛知県田原市の農地において、再生利用事業者が堆肥と称している物（以下「堆肥様物」という）が積み上

げられている事案について、堆肥様物の運搬等に係る費用を事業者が負担し、販売価格以上の便宜を図っていることから、本件が逆有償取引に当たるのではないかと考えるが、望月環境大臣の見解を伺いたい。

- ・国が認定した再生利用事業者については国が責任を持って監督・指導を行うべきと考えるが、望月環境大臣の見解を伺いたい。

玉 城 デニー君（生活）

- ・再生可能エネルギーを最大限導入するための具体的な方策について、環境省に伺いたい。
- ・普天間基地の移設予定地がある辺野古・大浦湾を含む沖縄本島北部の海域の豊かな生物多様性を保全すべきと考えるが、望月環境大臣の所見を伺いたい。
- ・生物多様性の保全上重要度の高い海域を重要海域として指定する取組について、これまでの経緯、現状及び今後の見通しについて、環境省に伺いたい。